

# 小平図書館友の会 会報 32号



発行日 2014年5月15日  
発行者 小平図書館友の会会長 剣持 香世

ブログ <http://yamaoji.cocolog-nifty.com/kltomonokai/>

## もくじ

巻頭コラム「わたしの古本病」	1
特集 読書サークル・小平	2
第16回 チャリティ古本市	4
文学散歩 早稲田 4月19日	5
学習会報告	6
障がい者サービス学習会	6
障がい者サービス交流会 3月19日	
読書サークル・小平	6
声に出して本を読む会	7
YAを楽しむ会	7
図書館について学ぶ会	8
図書館協議会報告	8



第16回 チャリティ古本市 会場  
2014. 3. 29

## わたしの古本病

本が好き。書店や図書館に行き、たくさんの本に囲まれているだけで幸せな気分になります。

本は、装幀をながめ、手に取って重みや感触を味わうものだと思います。最近の電子書籍は便利なものですが、手触り感の面で、紙の本の魅力にはとうてい勝てません。

今年も、友の会のチャリティ古本市に五日間通して参加しました。それは私にとって至福の時でした。あたらしい本もいいのですが、埃にまみれた古本が醸し出す味は、捨てがたいものです。

そんな古本病の私。古本屋によく行きます。近隣の大型新古書店を利用することが多かったのですが、このところ、本格的な古本屋巡りにはまっています。小平では、たかの台「みどり文庫」と「ゆめや」、西荻窪「音羽館」、三鷹「上々堂（しゃんしゃんどう）」といったあたり。



たかの台「みどり文庫」は最近知った店で、店主ともお話しすることができました。お店の人との触れ合いも古本屋ならではの楽しみです。私はここで『寺山修司全歌集』（風土社・1971年発行）を手に入れました。手元に置いておくだけでもうれしい、存在感のある本です。

さて、この会報の発行直後、6月7日には、私の古本病の師匠と呼びたい岡崎武志さんの講演会が友の会の主催で開催されます。どんなお話しが聴けるか、とても楽しみです。講演会の案内は、交流紙、ちらし、友の会ブログで。（H・I）



## 特集 読書サークル・小平

### ◆「読書サークル・小平」とは？

ただ本を読むだけでなく、最近話題になったことや、面白かった本、展覧会情報、テレビ番組の話題まで、幅広く、ときに脱線しながらお話しする集まりです。2009年10月から始まり、この5月で22回を数えます。

主宰は会員の大森輝久さん。大学図書館の勤務経験もあり、本について知見の豊富な方です。

大森さんの巧みな誘導で、毎回楽しい読書会になっています。会員以外の方の参加も大歓迎。

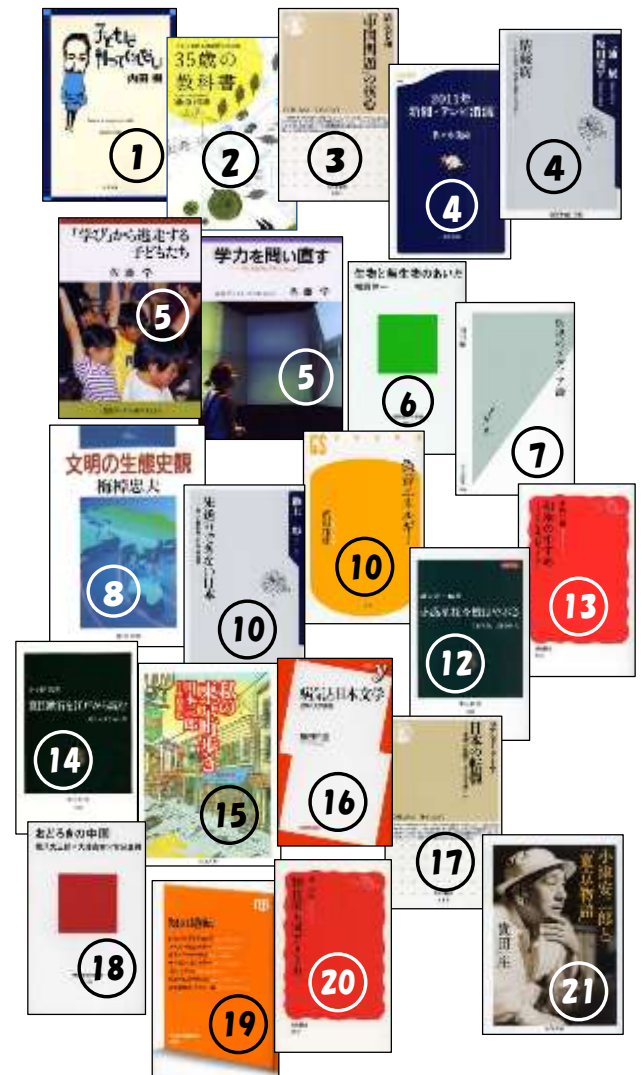
現在は主として隔月(奇数月)の日曜日に開催。会場は小平市中央公民館、等です。

### ◆ テキストの選定基準 ◆

- ①10万部程度売れていて評判のよい本
- ②紀伊国屋書店などの新刊棚に単行本にまじって配架されている新書、文庫本
- ③選定のバランスをとって芸術、文学ジャンルの本も加えています



第20回 読書会 2014. 1. 26



「読書サークル・小平」これまでの課題図書  
(丸付数字は開催回数)

### ◆ これまでのテキスト ◆

1	2009.10.18	子どもは判ってくれない(内田樹)
2	2009.12.13	35歳の教科書(藤原和博)
3	2010.2.24	「中国問題」の核心(清水美和)
4	2010.4.18	情報病—なぜ若者は欲望を喪失したのか
5	2010.6.20	学びから逃走する子どもたち(佐藤学) 学力を問い直す(佐藤学)
6	2010.9.19	生物と無生物のあいだ(福岡伸一)
7	2010.11.21	街場のメディア論(内田樹)
8	2011.1.23	文明の生態史観(梅棹忠雄)
9	2011.3.20	<キーワード読書会> 日記
10	2011.6.19	偽善エネルギー(武田邦彦) / 先送り できない日本—第二の焼け跡からの再出発(池上彰)
11	2011.10.16	<キーワード読書会> 料理、食
12	2012.1.15	小惑星探査機はやぶさ…(川口淳一)
13	2012.4.8	和本のすすめ(中野三敏)

14	2012.6.17	夏目漱石を江戸から読む(小谷野敦)
15	2012.9.9	私の東京町歩き(川本三郎)
16	2012.11.18	病気と日本文学(福田和也)
17	2013.1.20	日本の転機(ロナルド・ドーア)
18	2013.5.26	おどろきの中国(橋爪大三郎、他)
19	2013.11.17	知の逆転(ジャレッド・ダイヤモンド、他)
20	2014.1.26	楸貧困大国アメリカ(堤未果)
21	2014.3.16	小津安二郎と「東京物語」(貴田庄)

次回予定 2014年5月18日(日) 14時~16時  
 場所:小平市中央公民館 和室つつじ  
 テキスト:角川 one テーマ21(新書)  
 『里山資本主義—日本経済は「安心の原理」で動く』

～ 読書サークル・小平 参加者の声 ～

◆ 感想、サークルへの思い ◆

乱読のあまり、とりとめなくなりがちですが、読書会の選書が一定の基準になされることに感謝しています。ただ、読んだ上での選書でないためか、あまり面白さが感じられない本が混じるようで、ちょっと残念です。

年に一度、確定申告に行った帰り、BOOK OFF に寄り本を買うのを楽しみにしています。BOOK OFF はいわば有料図書館として、とくに若い人たちに好まれているようです。無料の公共図書館との棲み分けが今後どうなるか、興味津々というか、読書家にいい効果をもたらすように期待しています。友の会の古本市が両者の中間項 or 媒介項になるのかもしれませんがね。

3月の読書会、思い違いをして欠席してしまいました。残念です。

◆ 今後とりあげてほしい本、お薦めの本 ◆

中川大地『東京スカイツリー論』——多岐にわたる切り口が斬新。＜拡張近代＞の概念が新鮮ですが、異論があります。／沖方丁『天地明察』——聞きしに勝る面白さでした。／若杉冽『原発ホワイトアウト』——文学的香りは乏しいですが、原子カムの実態をよく描いていると思いました。(大宮信光)

◆ 感想、サークルへの思い ◆

読書サークルは二カ月に一度という間がいいのかわ無理なく参加しております。

その時の話題の新書、文庫など（文芸本の無いのが残念ですが……）から一冊を選び、内容について話し合います。時には脱線しますが、内容の濃さでカバーされます。

そのつど皆さんの博識には驚かされます。

大森さんの用意して下さるレジメには、時のベストセラー、文献、文化人の動静などがまとめられており、後で見ても参考になります。

二時間余りの読書会ですが、毎回色々な料理を美味しくいただいた気分になります。

◆ 今後とりあげてほしい本、お薦めの本 ◆

『野心のすすめ』林真理子（講談社現代新書）  
『だから日本はズレている』古市憲寿（新潮新書）  
(渡部)

サークル代表 大森さんの報告を6ページに掲載しています。



◆ 感想、サークルへの思い ◆

YA読書会に対して大人向けの本を読む会として発足した「読書サークル・小平」がもう4年半経ちました。大森さんの好リードのもと、毎回その時点で話題になっている旬の本を選んで語り合います。

興味があるテーマであったり、あまり興味のないテーマだったりですが、それも自分では手に取らない本を読む機会になり、新しい発見をして視野を広げる助けになることを願いつつ、メンバーの考え、意見に耳を傾けています。

◆ 今後とりあげてほしい本、お薦めの本 ◆

皆の興味が集まり、議論が発展しやすい本となると難しいのですが、時代の社会現象を扱った本と同時に、文学的なもの——たとえばNHK「100分de名著」で取り上げている本——などもどうかと思います。(鶴飼)

◆ 感想、サークルへの思い ◆

「読書サークル・小平」は読んだ本を皆様と一緒に様々な事を話して考えていくのがとても良いと思います。私は、情報技術やコンピュータ及び通信等の新書を読むことが多いのですが、サークルで取り上げる本も、読むとまた違った事を学ぶことが出来ます。このサークルで色々な本を読んでいくことにより、自己学習していけたら良いと考えています。

◆ 今後とりあげてほしい本、お薦めの本 ◆

『つながる図書館』『ユーミンの罪』  
『コンピュータって』『さとり世代』など。

(加藤)

◆ 感想、サークルへの思い ◆

読書サークルのテーマ本は話題の本、テーマにしたい内容の本などから選んでいます。テーマ本の中にはなかなか読み込めなくて拾い読みして行くことも……そんな時は皆さんの話からいろいろな視点がみえて新しい発見があったり、すっかり読破した気分になったり。

時には、話がテーマから外れて思いがけない方向に行くこともあります。それも楽しみの一つです。

大森さんの上手な舵取りで、日曜日の午後、良い時を過ごせたと思わせてくれる読書サークルです。

◆ 今後とりあげてほしい本、お薦めの本 ◆

大雑把ですが、作家のエッセイ。

志賀直哉『城の崎にて』 (藤原)



# 第16回 チャリティ古本市

今年も、3月29日(土)、30日(日)の両日、中央公民館ギャラリーでチャリティ古本市を開催しました。

26日から28日までの寄付本受付とあわせて、たくさんのお客様にご来場いただきました。

- ・集本数 約2万8千冊(昨年度繰り越し 約8,300冊)
- ・売上数 約9,100冊(29日 6,400冊/30日 2,700冊)
- ・売上金額 34万2,830円  
(29日 約25万4千円/30日 約8万8,500円)
- ・来場者数 約1,000人(29日 760人/30日 300人)
- ・本の寄付者数 約360人

売上金から経費を差し引いた純益を、小平市立図書館と一般社団法人「みんなのとしょかん\*」へ寄付する予定。古本市残金は、三分の一ほどを来年分に繰り越し、残りを町田市の福祉施設「共働学舎」へ寄付しました。

\*「みんなのとしょかん」は、東日本大震災被災地の仮設住宅などで図書館を核としたコミュニティ再生に取り組んでいるNPOです。

あらたな試み  
買物かごを33個用意しました  
お客様にも好評  
次からも使用します



本の陳列も工夫  
市販の発泡スチロール製ブロックと板を利用した棚  
本が見やすくなりました



2014. 3. 29 初日のにぎわい



じぶんの本を持ってきて  
寄付してくれたこどもたち

## ～ お客様の声 (出口インタビュー) ～

30代女性3人組  
「子どもたちが合唱の練習なので、その合間にきました。すごくいい児童書がたくさんありますね。それに本がきれいです。お得感で満足です」  
そこへもう一人、会計を済ませ大きな袋を抱えて…  
「わあ、いっぱい買ったのね！」  
「だって欲しい本がいっぱいあるんだもの。焦っちゃう。これなんかセットで200円だったのよ！」  
三人はそれぞれ重い袋を持って駐車場へ向かいました

70代男性  
廊下のベンチで買った本を眺めながら整理中…  
「今日は趣味の本を買いました。毎年本の寄付もしています。本は“物”ではなく、心の軌跡ですから」

70代女性  
出口から、にこにこしながら出てきて…  
「古い本がいっぱいあって、うれしくて、うれしくて。今の本はつまらないんですもの。広辞苑片手に読むの。毎日が勉強よ」

70代男性  
「諸橋の大漢和辞典」を購入、台車で運搬…  
「(大漢和は)図書館に来ればあるんですが、来るのも調べるのも時間がかかって…。やっぱり自宅に欲しいんです。本は家の中をかなり占領してしまって、ほんとうはもう置ききれないんです。今日は家内の留守の間に運び入れます」

ご来場、お買い上げ、ありがとうございました。来年もまた3月末に実施の予定です。ぜひご来場ください。ご不用になった古本の寄付もお願いします。



# 文学散歩 早稲田

2014年 4月19日(土)  
参加 19名



2014.4.19 文学散歩 大隈銅像前で

文学散歩に参加して

村松基由

4月19日(土)、さわやかな若葉の季節の中、早稲田大学内の會津八一記念博物館、坪内逍遙演劇博物館の見学をしました。

私は、會津八一という人物の事は何一つ知りませんでした。学芸員の方のガイドにより、建物の由来、コレクションの数々の説明を受け、東洋美術史の研究者、歌人、書家として立派な業績を残した偉大な人物であることを知りました。

コレクションの中で特に印象に残ったのは、横山大観、下村観山による日本画の大作。4.5mの継ぎ目のない和紙に描かれている「明暗」です。深い暗から明に至る過程が示されているとの説明を受け、改めて大観の偉大さに感銘を受け、いただいたポストカードを出しては眺めています。

午前中はここで終わり、昼食は沢山の学生が行き交う学生食堂で友の会の皆さんと一緒に、私はカレーを食べました。安くて美味しかったです。

\*

午後からは、坪内逍遙演劇博物館を見学。ボランティアの方のガイドによる、親切で丁寧な説明を受けました。1階はシェイクスピアの世界、2、3階は日本の演劇史を時代別に紹介しています。又、六世中村歌右衛門展が特別にあり、10回目を迎え今回が最終回になるとの事なので、ラッキーでした。

2時すぎに終り、記念写真を撮り現地で解散しました。今回、素晴らしい両博物館を見学出来て本当に良かったです。まだ見学していない方がいたら、是非に見ていただきたいと思いました。

なお、入場料は両博物館とも無料。これも魅力的です。

今回の企画をして下さいました幹事の皆様にお礼申し上げます。有難うございました。次の文学散歩にも又、参加したいと思います。

\*\*\*



早稲田大学坪内博士記念演劇博物館  
(写真) Wikipedia より

■早稲田大学會津八一記念博物館

新宿区西早稲田 1-6-1 TEL 03-5286-3835  
早稲田キャンパス正門から入って左手  
ウェブサイト

<http://www.waseda.jp/aizu/index-j.html>

■早稲田大学坪内博士記念演劇博物館

新宿区西早稲田 1-6-1 TEL 03-5286-1829  
早稲田大学早稲田キャンパス構内

ウェブサイト <http://web.waseda.jp/enpaku/>



～ 次回の文学散歩 ～

6月13日(金) 午前10時集合  
小金井公園内「江戸東京たてもの園」  
申込締切 6月9日(月)

※ 事前に申し込みが必要です。

会員の親睦をはかるのが趣旨のため、  
参加資格は、会員及びその同伴者に限定。

定員20名前後とさせていただきます。

詳細は、交流紙、ちらし、友の会ブログを  
ご覧ください。

## 第15回 障がい者サービス交流会 報告

3月19日(水)、小平市中央図書館視聴覚室に、視覚障がい者5名、ガイド2名、ボランティアグループの方8名、社協、図書館職員7名、それに友の会会員7名を加え、計29名が一堂に集まりました。



第15回 障がい者サービス交流会  
2014. 3. 19 小平市中央図書館視聴覚室

年に一度の貴重なこの集まりも、回を重ねて15回目となりました。この会を始めて10年位は、図書館に、なかなか障がい者サービスに目を向けていただけなく、もどかしい気持ちでしたが、ここ数年は目に見えて動いてきました。

\*

まず、対面朗読ができる館が、施設などの理由で中央、大沼の2館だけでしたが、市内7館全館で対応していただけるようになりました。そのための音訳ボランティア講習も始まりました。お蔭で対面朗読の回数は、24年度は6回だったのが25年度は24回に増えたそうです。

これは交流会を始めた当初からの希望でしたので、大変うれしいことです。

\*

次に、小平市図書館が、全国の点字図書館等の製作、所蔵するデジタイズ図書等を集めた、日本最大の書誌データベース「サピエ」に加入しました。

これで、遠い点字図書館まで出かけていなくても、自宅から近い図書館で点字図書館とほぼ同じサービスを受けることができるようになりました。

\*

また、広報に力を入れ、市報、社協だより、図書館だよりに掲載するほか、市内施設ばかりでなく、眼科病院にもチラシを置いてもらう等、図書館のサービスをよりきめ細かく知ってもらう努力をされたそうです。

このような努力は、障がいのある利用者ばかりでなく、今後の図書館利用者を一段と増やしていくことにつながると思います。

図書館職員が、視覚障がい者やボランティアグループからの質問や要望にも丁寧に耳を傾け、より良いサービスを目指している様子がうかがえて、交流会を続けてきてよかったと、うれしく感じました。

\*

図書館は、今年度も音訳者講習や、カセットテープの録音図書のデジタイズ化、市民便利帳やチラシの点訳版の作成、サピエで人気のある録音図書の利用ランキング音訳版の作成等、さらに障がい者サービスにエネルギーを注いでくださるそうです。

今回の交流会で出された要望も、きっと近いうち実現されることでしょう。(奥村公子)



## 学習会報告

### 読書サークル・小平

「読書サークル・小平」の進行役を担当して

大森輝久

- ◆ 評価の高い本を読むようにしています。そして、「突っ込んで読む」ことを目指しています。うまくゆけば、本の姿がよく見えてきます。
- ◆ 評判が高くてウツカリしていると読まないで過ごしてしまう本があるので、それらを読める機会となればいいかなという感じです。
- ◆ レジメ4ページ目は「出版界で起こっていること」「出版された本」の概要が分かる内容を考えています。
- ◆ 読書会では、最初にウォーミングアップとして「最近話題となっていること」についてオシャベリをします。前はSTAP論文の瑕疵について話しました。日本の大学では「論文の書き方」を教えなかった長い歴史について話しました。次回は『舟を編む』について話します。
- ◆ 最後に、皆さん！「今、読むべきでしょう！」という本がありましたらお知らせください。

# 学習会報告

## 声に出して本を読む会

～「ことばのしらべ」継承と課題～

2005年1月結成以来9年目の私たちの活動は、単なる朗読形式の発表から、専門分野の方々のご指導、ご協力を得て、メンバーも10名前後の会員で維持され、とくに、会員の内山恵司さん（東宝演劇）のお力添えで発表内容に工夫が加えられました。

\*

昨年は、4月6日に第7回「ことばの玉手箱」をルネこだいら・レセプションホールで、第8回を10月11日～12日にシラヤ・アートスペースで、発表することができました。

毎回、「発表のテーマ」と、きびしい総括を楽しむ会員もいますが、筆者などは日ごろの不勉強がそのまま出るため、居場所がない状態で、いかに次回をめざすか戦々恐々です。

\*

前回は、第一日が「闇だまりの花（佐江衆一）」「存在の美しい悲しみ（小池真理子）」「虹の空（藤沢周平）」、第二日が「雪明かり（藤沢周平）」「花の名前（向田邦子）」「老妓抄（岡本かの子）」と、ちょっと欲張った発表内容となりました。その後のアンケートでは、温かいお励ましと厳しい応援が混ざったご評価に、一同、気を引締め、次回に備えて演習その他、準備を進めています。

\*

次回は10月18日（土）～19日（日）の2日間、小平市小川西町 NMCギャラリー（西武拝島・国分寺線、小川駅西口徒歩2分）で発表します。

会員一同さらなる向上を目指し、「声に出して本を読む」ことが「ことばのしらべ」に通じるものとして、会員の皆さんに支えられ、活動の成果が出ることを期したいと考えます。（雑崎亮平）

\*\*\*

「声に出して本を読む会」次回発表会の案内は詳細が決まりしだい、交流紙、ちらし、友の会ブログでお知らせします。

## YAを楽しむ会

YAを楽しむ会では、毎月2冊の本をみんなで読んでいます。

2013年

10月 『ギョロ目のジェラルド』 アン・ファイン  
講談社 / 『アーサー王と円卓の騎士』 サトクリフ  
原書房

11月 『嵐にいななく』 L・S・マシューズ 小学館 /  
『ロバになったトム』 アン・ローレンス 徳間書店

12月 『まぼろしの小さい犬』 フィリッパ・ピアス 岩波  
書店 / 『私はたおれて血を流す』 イェニー・ヤーゲル  
フェルト 岩波書店

2014年

1月 『幽霊の恋人たち』 アン・ローレンス 偕成社 /  
『ながいながいお医者さんの話』 カレル・チャペック  
岩波書店

2月 『ゲド戦記1・2』 アーシュラ・K・ル＝グウィン  
岩波書店 / 『アンブラと4人の王子』 アン・ローレン  
ス 偕成社

3月 『希望（ホープ）のいる町』 ジョーン・パウアー  
作品社 / 『キアズマ』 近藤史恵 新潮社

4月 『メイおばちゃんの庭』 シンシア・ライラント あ  
かね書房 / 『ホビットの冒険』 トールキン 岩波書店

『希望（ホープ）のいる町』では、現代社会の抱える問題に向き合い、前向きに行動する子どもの姿が、『まぼろしの小さい犬』では、いつの時代も変わらない、自分の心に向き合い、痛みをとめないながらも静かに内面的に成長する子どもの姿が読み取れました。古典にも最新刊にも学ぶべきものがあることを実感しています。



\*

一冊の本をみんなで共有することで話しは弾み、心豊かな時間を過ごさせていただいています。（大山容子）

\*\*\*

## 図書館について学ぶ会

この学ぶ会に集まるのは、本が好き、図書館が好きを自認する人たちですが、多方面に忙しい人たちでもあります。テーマに沿って深〜く掘り下げ学習研究をするにはちょっと時間が足りません。でも「図書館のことをもっと知りたーい」ので近隣図書館の見学に出かけることにしました。

\*

さて2月の末、青梅市中央図書館を、会員8名で見学してきました。この図書館はJR青梅線河辺駅から徒歩1分の商業ビルの2階から4階までを使っています。アクセスの良さから通勤通学の帰りや買い物帰りに利用されることが多いようです。立地の良さを生かしながら市民サービスの充実を図るため細やかな工夫を見ることが出来ました。明るく開放的な館内は本たちが「Wellcome!!」といているようです。本好きにはたまらない空間です。特色的なのは書棚の間を静かに行きつ戻りつして本を整理して歩く「整架ボランティア」の存在です。約40名が登録し、個人の空いた時間を利用して好きな時間だけ活動するそうです。



2014.2.27 青梅市中央図書館  
佐藤様から説明を受ける会員

もちろんルールはそれなりにあるとは思いますが、こういった協働は市民に受け入れられやすいそうです。もう一つは「まんが・コミック類」の扱い方。この類の蔵書はかなり充実しているようですが（例えば、ワンピース、テルマエロマエなど）すべて分館（11館）に所蔵し中央には置いていないそうです。公共図書館のまんが類の扱いは論議を呼ぶところですが、青梅市は時代のニーズに柔軟に対応しているようでした。

\*

こうやって見学をしてみると、どの図書館も基本的な事業の他にその自治体ならではの、きらっと光る特色が見えてきます。わが町小平の図書館とすぐに単純には比較できませんが、私たちが望んでいるこれからの図書館像のヒントになればと思うのです。

（剣持香世）

\*\*\*

## 図書館協議会報告

昨年度(2013年度)の小平図書館の動きについて、大雑把な言い方をすれば図書館友の会として要望した事がかなり実った1年だったと思います。

\*

障がい者サービスでは2014年度初めから視覚障がい者サービスが拡充され、対象者が広がって、点字資料・録音資料の貸出冊数が今までの5冊から10冊に増えました。対面朗読サービスも中央・大沼の2館から全館に拡大されました。

デジ図書も導入され、デジ図書再生専用機の利用と、1回に5タイトルのデジ図書を借りる事ができます。障がい者サービス以外にも、全館にインターネット専用パソコンが備えられ、また新たに国分寺市との図書館相互利用が開始されました。

\*

新仲町図書館・公民館は愛称「なかまちテラス」と決まり、これから内装、備品の備え付け等が始まります。そして、今年度後半開館を目標に小平初の図書館・公民館合築施設をどのように運営していくかを決め、運営マニュアルを作成していかなければなりません。休日、開館・閉館時刻の決定が、まず第一の仕事かと思えます。図書館職員の定数は旧仲町図書館と同じと聞いていますが、職員・ブックラック専用エレベーターが無いと、地下1階の職員室、閉架所蔵庫と2階3階の開架図書室との本のやり取り等、運用をどうするのかも、部外者ながら心配です。

ICTタグを使った効率の良い運営の先端的図書館となるよう、図書協委員として精一杯努力していきたいと思っています。

（塚本健男）

\*\*\*

6月講演会のお知らせ

講師 岡崎武志さん

（書評家・ライター）

2014年6月7日（土）

13:30~15:30

小平市中央図書館視聴覚室

先着順 定員80名

入場無料 予約不可

